

幼児教育における特別支援グループ研究会

グループ員：田中 佳奈（みずほ幼稚園） 渡邊 由紀（伊丹幼稚園）
福井 友美（稲野幼稚園） 郷原 里枝（南幼稚園）
濱地 磨未（緑幼稚園） 中村 美智子（桜台幼稚園）
藤澤 裕子（桜台幼稚園） 中畑 みどり（天神川幼稚園）
笠井 裕子（ささはら幼稚園） 貴島 香（ありおか幼稚園）
花森 恵子（はなさと幼稚園） 神野 正子（こやのさと幼稚園）
山本 容子（せつよう幼稚園） 嶋田 幹子（すずはら幼稚園）
野田 アズサ（いけじり幼稚園） 京治 慶子（こうのいけ幼稚園）
担当指導主事：上野 みづほ

キーワード：特別支援教育 幼児教育 幼児理解 教材研究 情報共有

1 研究テーマ

「支援を要する幼児への指導・支援について」

2 研究内容

昨年度の成果と課題に基づき、グループ員が互いに意見を出し合えるように小グループを組み、子ども理解の視点や教員の具体的な支援方法について学び合った。

(1) 事例研究

「問題行動の対処の仕方」、「集団活動や行事での関わり方」など、現在支援の仕方に悩んでいる子どもの姿を出し合い、効果的な手立てを話し合った。

(2) 教材研究

① 視覚教材の情報交換と効果の検証

グループ員が日々の保育の中で製作し、活用している視覚教材を持ち寄り、使い方やその効果などについて話し合った。それぞれのグループ員が、幼児一人ひとりの興味や関心を理解し教材づくりを工夫していることがわかった。新たな気づきがあったことで、自身が担当している幼児について振り返り、個に応じた視覚教材づくりへの意欲となった。

② 好きな遊びにおける支援の仕方

屋内・屋外にかかわらず、幼稚園で毎日行われている好きな遊びの時間に、どのような支援をしたり環境構成を工夫したりすることが必要かを考えた。グループ員からは、「幼児と教師の一対一の関わりを通じた遊びを教師から提供する」、「友達との関わりが生まれるような遊びの仲介をする」など、様々な意見が出された。話し合いの結果、どのような支援をするにしても、幼児理解をもとに支援の方法を探ることが大切であるということがわかった。

(3) 情報交換

記録の取り方や学級担任との連携、職員間連携、保護者支援、個別の指導計画の書き方等、各園の実践や具体的な支援方法について、また、南ブロックと北ブロックでの夏の園開放についての情報交換を行った。

3 成果と課題

(1) 成果

グループ員は各園に一名配置のチューリップ学級担当という立場である。同じ立場で課題を出し合い、情報交換や事例研究、教材研究を行ったことで、担当者としての支援方法について理解を深めることができた。

(2) 課題

支援を必要とする子どもの姿や課題は多岐にわたる。それぞれの子どもの姿に応じた具体的な指

導法等について、今後も事例研究等を通して理解を深めていく必要がある。